

## 2009年6月期 1Q決算説明会

### 質疑応答要旨

- Q. 工事進行基準にかかる第1四半期の利益への影響額が約5億円とのことだが、この影響は第2四半期も同じ規模で発生する、すなわち上半期で10億円ということなのか、教えてください。
- A. 工事進行基準の影響は、各工事が完成すればそれぞれ解消されるものであり、累積はしない。すなわち、第2四半期での影響の見込みは、前第2四半期での仕掛残高約33億円の一定割合が進行基準で売上あるいは利益に計上されるというものであり、第1四半期と比べて若干増えるかもしれないが、大きく乖離した数字になるとは考えていない。
- Q. 工事進行基準の第2四半期以降の影響度を教えてください。
- A. 基本的な考え方としては昨年度の仕掛残高からイメージをつかむことになる。前第2四半期末の仕掛残高は約33億円であることから、工事進行基準の第2四半期における売上は約20億円程度ありうると想定している。これらを勘案すると今第2四半期は、第1四半期より若干の増加若しくはほぼニュートラルな状態で通過し、期末にかけてインパクトが減少する見込みである。最終的に今通期期末段階での影響としては、前期末仕掛残高が約15億円あったことから想定し、今通期末段階ではこれらと同程度の工事進行基準の影響があらうと想定している。ただし期中での受注状況や案件規模によっては想定からやや上下する可能性があると考えている。
- Q. 工事進行基準に関連して、仕掛残高とソフト開発作業量の関係を教えてください。今第1四半期仕掛残高と売上高の数字を見ると、状況はむしろ昨年よりよいのではないですか？
- A. 昨年との対比のために今第1四半期を進行基準の影響を除いた完成基準で考えた場合、まず今期の工事進行基準適用で売上計上された約22億円から総利益約5億円を差し引いた約17億円(原価勘定)、それに今第1四半期末の仕掛残高約18億円を足した約35億円が仕掛残高であり、昨年同期比では確かに5億円弱増加している。これは、中大型の案件の受注が比較的増えており、かつ生産実績等も落ち込んでいないということが背景と考えられ、受注残高の増加とも呼応する話である。
- Q. 工事進行基準の影響を考えると、中間期ベースにおいても業績予想はコンサバティブに見えるが、その点につき貴社の認識を教えてください。
- A. 工事進行基準の影響も考慮し業績予想をしており、かつ足元は想定範囲内で推移しているとの認識である。

Q. 受注高／受注残高が昨年より多いのは特定の大型案件が入っているためか、教えてください。

A. 今第1四半期の受注残高の中には20億円規模の案件が含まれている。大型案件となるので各期に分割されて第2四半期以降に工事進行基準で計上されると思われる。

Q. 証券における主要な顧客が資本調達を行ってシステム投資を増額するようだが、その影響はあるのかどうか教えてください。

A. 現状では特段影響は起きていない。証券業向け業務の通期の見通しは厳しいままであると考える。

Q. 特損について。連結子会社とはどこのことか。またソフトウェア償却は単体ではなく、連結子会社のものか教えてください。

A. 連結子会社に関するのれん償却及びソフトウェアの減損である。今回の減損を以って今後の営業利益への影響は縮小できると考えている。具体的な社名の開示は控えさせていただきたい。

Q. ERPの数字を教えてください。

	SAP	Oracle	ProActive	(億円)
A. 09/1Q	17	9	12	=合計 38 億円
08/1Q	19	4	14	=合計 37 億円

Q. 6月辺りから外部環境の改善を感じているとのことだが、業種別の動向があれば教えてください。

A. 具体的には製造業向けITプロダクトセールスについて、期末段階では完全に案件がストップしていたが、現在はそれらの案件の再確認や見直しが起こっている。また、ソフトウェア開発においては、中大型案件に関しては着実に進行している状況ではあるが、小型の案件や簡単な改変等の案件に対する企業の投資姿勢は依然厳しいものがある。

以 上